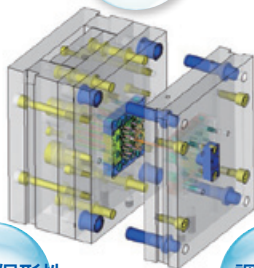


世の中を支えるアルプスの技術

金型一発完動 の実現

フロント・ローディング
各部門が設計・開発段階より参加

精密加工技術
狙い通りの加工



CAE活用
コンピュータを活用した
予測・解析

転写性・保形性
総合的なデータでの評価

調整レス
造り直しをしない

金型技術

小型で精密な電子機器に使用される微細な電子部品を高品質で大量に造るためには、高精度な「金型」が必要です。

この金型とは、金属製の型のことで、金属板の打ち抜きや折り曲げ、また樹脂を流し込むことなどにより、材料を成形して部品を造り出します。身近なものに例えると「たい焼き」の型が挙げられます。

当社が生産する電子部品は、ナノ（100万分の1ミリメートル）レベルの精度で製作する「金型技術」によって生み出されており、要となる技術の一つです。

金型生産拠点である北原工場（宮城県大崎市）では、生産のハイスピード化や効率化に加え環境負荷を低減するため、金型製作での「一発完動」に取り組んでいます。

小さなスイッチでも、複数の金型により多くのパーツを造り出し、それを正確に組み立てて完成します。高精度な金型が造られないと良いパーツが出来ず、スイッチが組み立てられなくなり、金型を初めから造り直さなければなりません。

当然の事かもしれませんが、電子部品の小型化に伴い、多くの高精度な金型を造り、製品を組み上げる事が難しくなっています。

そこで当社では、ただ単に「金型を精度高く造る」ことに留まらず、電子部品の設計・開発段階から、どうしたら「金型を造り易く出来るか」、「各パーツが正確に出来るか」、「組み立て易く出来るか」を、設計、技術、製造の各部門が一緒になって取り組んでいます。

その結果、金型の造り直しや廃棄を大幅に削減し、時間や材料の無駄を無くすことが出来ました。

私たちの合言葉は、「一発完動」。これは、何度も造り直しをせず、1回で完全に動くもの、高精度なものを造るという意味です。

これからも「一発完動」で、皆様に「感動」を与えられる製品を造り続けていきます。

ALPS REPORT

第83期 第2四半期報告書

アルプス電気株式会社 2015年11月27日発行

NO.161

証券コード：6770

Top Message

皆様へ

ごあいさつ

落ち葉が舞い、冬の訪れを感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

上半期における世界経済は、中国の景気減速が鮮明となる中で、東南アジアでは通貨下落などから経済成長が減速し、またロシアでも原油安、通貨安などにより経済の低迷は長期化しました。

一方、米国では個人消費や雇用環境の堅調さが持続し、依然として順調な回復を続けるとともに、欧州でも同様に、英国やドイツで緩やかに景気回復が進みました。日本経済も、設備投資の増加や雇用回復などにより、景気回復基調は続きました。

エレクトロニクス業界におきましては、好調な米国景気などを背景に自動車需要は堅調に推移し、スマートフォン市場では北米主要メーカーの新商品発売、中国メーカーの躍進などにより、拡大傾向が続きました。

これらを背景に、当社の上半期の業績につきましては、自動車市場向けの各種入力用モジュール及び車載用通信モジュールの売り上げが堅調に推移しました。スマートフォン向けでは、主要顧客の新商品へ、カメラ用アクチュエータやタッチパネル用センサなどコンポーネント製品が多数採用されるとともに、新規顧客への拡販も進みました。

新市場向けでは、これまでの取り組み成果がセンサを中心に徐々に現れ、売上、利益ともに前年同期実績を上回り、上半期の連結業績として過去最高を記録しました。

今後も、車載市場向け製品での収益力の強化、スマートフォン市場での拡大に取り組むとともに、環境・省エネルギー関連での成果を足がかりに新市場への取り組みを一層加速させ、更なる収益拡大を目指します。また、IoT、V2Xなど、昨今のデジタル・ネットワークの進化に対し、固有技術をベースにした新製品開発はもとより、各種アライアンスも含めた開発スピードの強化、新提案も進めてまいります。

さて、去る10月に千葉県幕張メッセで開催された



「CEATEC JAPAN 2015」に出展いたしました。今回は、IoTへの具体的な提案を中心とした展示とし、連日多くの皆様にご来場いただくとともに、TV局をはじめマスコミに多数取り上げられるなど、大変注目を浴びました。またセンサと通信モジュールを一体化した「センサネットワークモジュール」がグリーン・イノベーション部門の準グランプリを受賞しました。

上半期は好業績を残すことができたが、依然として市場の変化は激しく、緊張感と危機意識を持ち続け、更なる業績向上に取り組む所存です。

なお、当期の中間配当金は10円を予定しており、今後も株主の皆様のご期待に応えられるよう、一層の努力を重ねてまいります。

皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長

栗山年弘

第7次中期経営計画の進捗状況

(2014年3月期～2016年3月期)

第7次中期経営計画の最終年度に入り、上半期の連結業績として売上・利益ともに過去最高を記録する結果となりました。

電子部品事業では、収益性の高い製品の堅調な推移と新製品の販売により、引き続き好調を維持しました。

今後の成長を支える重点項目

1 車載市場

売上2,000億円の達成

2 スマートフォン向け市場

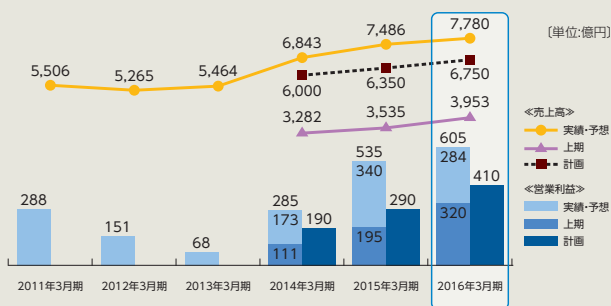
売上1,000億円の達成

3 新市場向けビジネスの確立

環境・エネルギービジネス、ヘルスケアビジネスなど

第7次中期経営計画 進捗状況 [連結]

2014年度 大幅増益 2015年度も増収増益を目指す



第6次中期経営計画

第7次中期経営計画

1 車載市場

2014年度に1年前倒しで売上2,000億円を達成し、当上半期も順調に推移しました。

自動車の電装化が拡大しており、当社はモジュール戦略の強化品目として、電子シフター、コマンダー、ヘッドアップディスプレイに注力してまいります。

通信モジュールは現在、車室内におけるインフォテイメント領域でのコネクティビティ向けに手掛けており、Bluetooth®モジュールが業界シェアNumber 1を誇っています。今後のITS(高度道路交通システム)社会の広がりを視野に、車外とのコネクティビティにも注力し、自動運転のアシストとしてADAS(先進運転支援システム)やDSSS(交通安全支援システム)に対応すべく、V2X(Vehicle to X)モジュールやGNSSモジュールなど、自動車とさまざまなモノを通信でつなぐ製品においてもNumber 1を目指し、V2Xモジュールは一部自動車メーカー向けに量産を開始しました。

2014年度に1年前倒しで達成。電装化の拡大に向けた開発・拡販の継続



車載用V2X (Vehicle to X) / GNSSモジュール

V2X (IEEE 802.11p/WiFi/Bluetooth) GNSS Module

高精度位置情報と組合せて予防安全、交通事故ゼロへ。



車載用 LTEモジュール

LTE Data Communication Module for Automotive Use

世界最小、グローバル対応を実現。



2 スマートフォン向け市場

2014年度に1年前倒しで売上1,000億円を達成しました。

当上半期も順調に推移し、カメラ用アクチュエータについては、2014年度に主要メーカー向けに製品化したOIS(手振れ補正機能付きアクチュエータ)が拡大し、また、中国メーカーなどへ高速オートフォーカスや低消費電力化に対応した製品バラエティを展開して拡販を進め、堅調な伸びを示しました。今後もシェアNumber 1を維持してまいります。

また、新製品の高性能地磁気センサや曲面タッチパネルも堅調に増加しました。

小型化・高機能化に対応



増容・増プログラムを目指した次世代製品の開発と提案 標準化した製品群による拡販



3 新市場向けビジネスの確立

昨年の「ALPS SHOW 2014」及び本年10月に開催された「CEATEC JAPAN 2015(以下、「CEATEC」)」で出展した新製品の事業化を目指してまいります。

CEATECにおいて、「センサネットワークモジュール」がグリーン・イノベーション部門の準グランプリを獲得しました。6軸(地磁気+加速度)、気圧、温湿度、照度の各種センサと、Bluetooth® Smartモジュール、そしてアンテナを1パッケージ化して世界最小クラスを実現。これにより、アクセサリへの埋め込みや設備の隙間スペースなど、場所を問わずに設置が可能で、環境のモニタリングや健康管理、インフラ設備の監視等、幅広い用途への応用が期待できる製品です。

この他、企業がモノのインターネット(IoT)技術を活用した新規事業への参入やデータを活用した新サービスの開始を支援するため、日本アイ・ビー・エム株式会社様とIoT事業で提携しました。

当社では、HMI、センサ、そして通信によって、さまざまなものをつなげていくコネクティビティに注力し、環境・エネルギーやヘルスケア分野を次の事業の柱に育ててまいります。

ALPS SHOW 2014・CEATEC JAPAN 2015に出展した新製品の事業化



今後も当社は「美しい電子部品」を究め、Number 1・First 1の製品を提供し続けてまいります。

未来の社会を支える注目の新製品

人と地球の明日を豊かにする、暮らしに役立つ新製品を紹介します



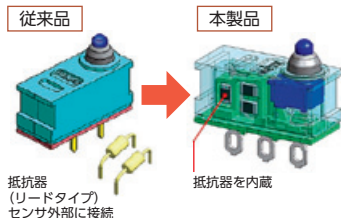
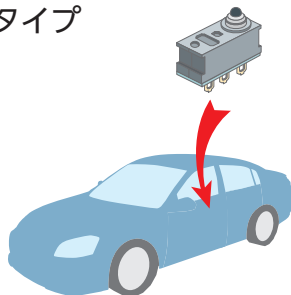
アイドリングストップ車の開閉部異常検知に貢献

抵抗器内蔵型接点式 ポジションセンサ分圧タイプ

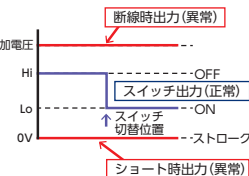


主な用途

自動車のドア、トランク、ボンネットなどの開閉及び異常検知



異常検知

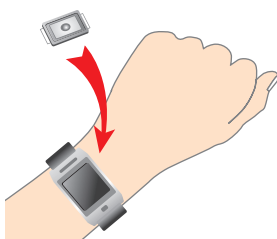
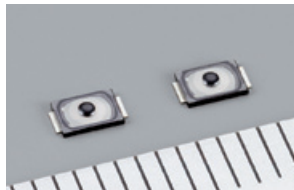


低燃費や環境配慮の必要性から、アイドリングストップ機能を搭載する自動車が増えています。アイドリングストップ時は、安全のためドアが開いたままではエンジンが再始動しない仕組みとなっており、ドアの開閉や周辺回路の異常をいち早く検知する必要があります。

そこで当社は、従来では個別に実装されていたセンサと抵抗器を一体化し、最大3個の抵抗器の内蔵を可能とした接点式ポジションセンサを新開発。ドアなどの開閉検知に加え、周辺回路上の断線やショートなどの検出が可能です。これにより自動車の異常を検知するとともに、セットメーカー側での工程削減や回路の小型化などによる設計自由度の向上、更に品質の安定化に貢献します。

業界最小サイズと業界最高の防塵・防水性能を両立

タクトスイッチ®



主な用途

ウェアラブル端末、ヘルスケア機器、スマートフォンなど、防水性能が必要な小型機器

腕時計、補聴器など、身に付ける電子機器は、汗や雨、ほこりなどにさらされることから、内蔵する部品にも高度な防塵・防水性能が求められます。

そこで、当社は3.0mm×2.0mm×0.6mmの業界最小サイズで業界初のIP68^(※1)相当の防塵・防水性能を実現したタクトスイッチ®を開発、製品ラインアップに追加しました。従来、モバイル用途の同小型スイッチでは、IP67^(※2)の防塵・防水が一般的でしたが、当社独自の設計・製造技術を駆使することによって、最高レベルのIP68を達成。これにより、水中での使用も可能となりました。

IP(International Protection)規格で、外来固体物に対する保護内容と水の侵入に対する保護内容を表す。

※1 IP68：粉塵が内部に侵入せず、水中操作が可能

※2 IP67：粉塵が内部に侵入せず、水没にも対応

2015年8月

- ベトナム駐在員事務所を現地法人化。アルプス・ベトナム設立
- 当社株式が、JPX日経インデックス400の対象銘柄に初選定

2015年9月

- 高い検出信頼性を確保した「抵抗器内蔵型接点式ポジションセンサ分圧タイプ」を発表
- 配電システム「磁気式電流センサ」をABB社様と共同開発
- 2015年度第2四半期業績上方修正を発表

2015年10月

- 小型かつ防塵・防水を実現した「タクトスイッチ®」をラインアップに追加
- 薄型ながら従来比2倍の移動量を確保した「タクトスイッチ®」を発表
- 新規営業拠点として朝霞出張所を開設
- 日本アイ・ビー・エム株式会社様とIoTシステムで提携
- ユニアデックス株式会社様とセンサネットワークモジュールを活用したIoT分野で協業
- 「CEATEC JAPAN 2015」に出展
- 2015年度第2四半期決算、通期業績上方修正を発表

配電システム「磁気式電流センサ」をABB社様と共同開発

当社とアルプス・グリーンデバイス株式会社は、スイス・ABB社様と共同で、配電システムへ取り付けて電流をモニタリングする磁気式電流センサを開発しました。

電力技術とオートメーション技術の先進的企業であるABB社向けの本製品は、同社のデータセンター向けスマート分電盤に搭載されています。



U字型 磁気式電流センサ

本製品は、独自の材料・薄膜技術を応用した小型・高精度磁気センサ素子を採用。磁束を収束させるコア部が不要なため、着脱が容易なU字型の本体形状としています。これにより、既設の配電システムでの通電を止めずに電流センサを設置できることが最大の特徴で、メンテナンスも容易。U字型の形状で高精度、かつデータセンターに対応出来る磁気式電流センサは世界初です。運用コストの削減及び拡張性などの特長を兼ね備え、工場や銀行、病院などの幅広い用途への適用も可能です。

日本アイ・ビー・エム株式会社様とIoTシステムで提携

当社と日本アイ・ビー・エム株式会社様は、モノのインターネットIoT事業で提携し、幅広い業界でのIoTビジネスの立ち上げを支援していきます。具体的には当社のIoTスマートモジュールで測定したさまざまなデータを同社のクラウドサービス「IBM® Bluemix」に蓄積し、ユーザーが活用出来る仕組みを一括提供するものです。

これにより製造業やサービス業が、生産性向上やインフラ監視、介護サービスなどの分野でIoT事業を手掛けやすい環境を整備し、新たなビジネスを展開することが容易になります。

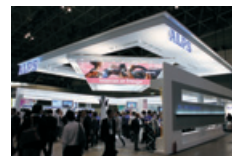
「CEATEC JAPAN 2015」に出展

10月7～10日、当社は千葉市の幕張メッセで開催された電機・IT分野の国際見本市「CEATEC JAPAN 2015」に出展しました。

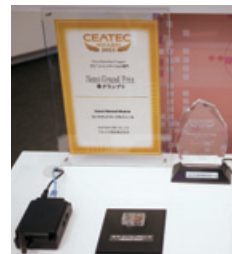
当社ブースでは、コア技術を生かした新製品やデモを展示。昨今注目を集めるIoT市場に向け、幅広い検知ニーズに応えるセンサ群に通信技術を組み合わせ、実用場面を想定したアプリケーションを提案しました。

また、当社の「センサネットワークモジュール」が、「CEATEC AWARD 2015」のグリーン・イノベーション部門準グランプリを受賞しました。

連日多くの皆様にご来場をいただきとともに、国内外のマスコミ各社やテレビ局による撮影、取材も多数行われるなど、高い注目を集めました。



連日注目を集めた当社ブース



グリーン・イノベーション部門準グランプリを受賞したセンサネットワークモジュール

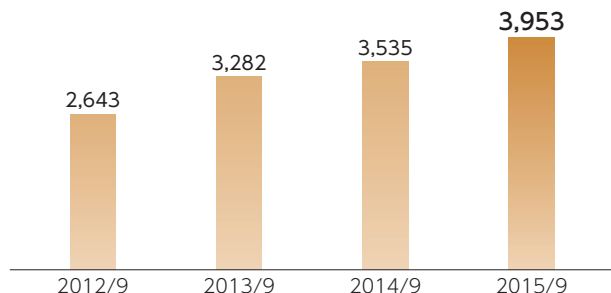
財務ハイライト

2015年4月1日～2015年9月30日

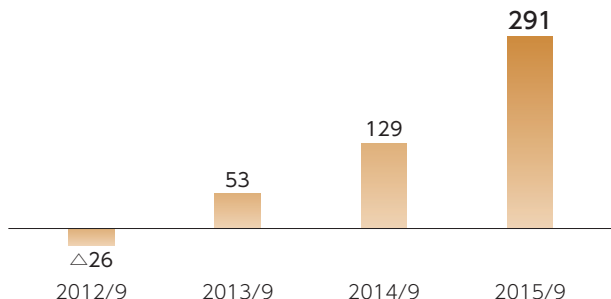


連結業績の概況

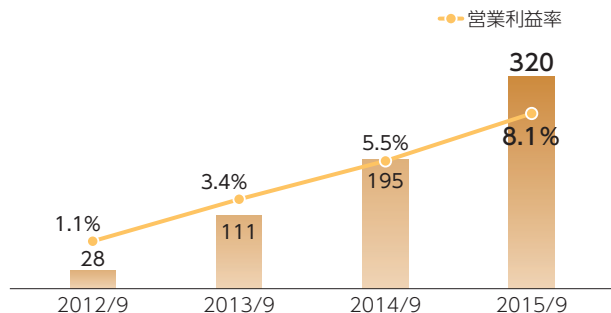
売上高 (単位：億円)



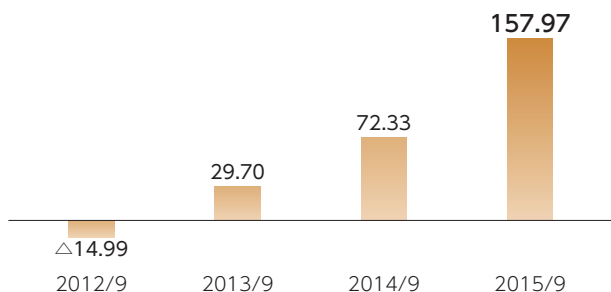
親会社株主に帰属する四半期純損益 (単位：億円)



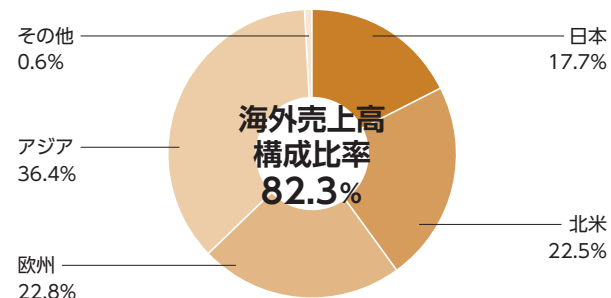
営業利益・営業利益率 (単位：億円)



1株当たり四半期純損益 (単位：円)



地域別売上高構成比



通期の見通し

2016年3月期 業績予想 (2015年10月29日修正開示)

売上高	7,780億円	(前期比 3.9%)
営業利益	605億円	(前期比 13.0%)
経常利益	595億円	(前期比 3.3%)
親会社株主に帰属する当期純利益	495億円	(前期比 42.5%)

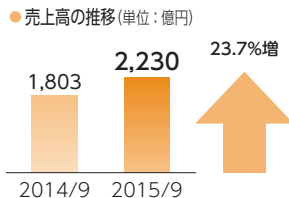
※想定為替レート：1ドル = 115円
1ユーロ = 125円

Financial Highlights

事業別の概況

2015年4月1日～2015年9月30日

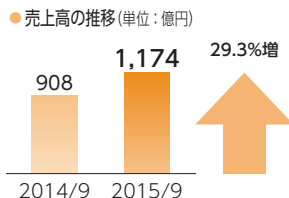
電子部品事業



■売上、利益ともに好調を維持

自動車市場向けの各種入力用モジュール及び車載用通信モジュールの売上が堅調に推移し、スマートフォン向けは主要顧客の新商品へコンポーネント製品が採用されるとともに、新規顧客への拡販も進みました。更に新市場ではセンサを中心に成果が現れ始め、好調を維持しました。

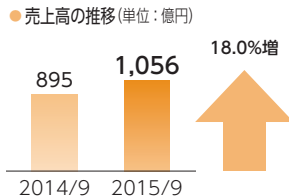
●車載市場



■先進運転システムを見据えた拡販

将来の自動運転を見据えた先進運転システムや低燃費化への開発に拍車がかかり、電子化のニーズがより高まる中で、電子シフターやドアモジュール、エアコンパネルなどの操作入力用モジュール及び高い接続信頼性の車載用通信モジュールも堅調に推移しました。

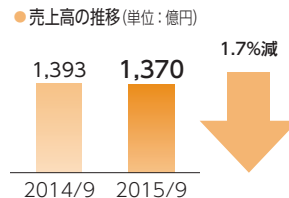
●民生その他市場



■環境・省エネルギー向け新製品の量産開始

スマートフォン市場で主要顧客の新商品が立ち上がり、またカメラ用アクチュエータの手振り補正機能付き製品が堅調に推移し、タッチパネル用センサ、スイッチ、小型磁気センサ等のコンポーネント製品も順調な伸びを示しました。新市場では環境・省エネルギー関連で大手顧客との共同開発による新製品の量産を開始しました。

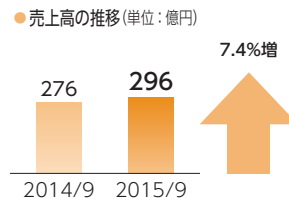
車載情報機器事業



■将来のビジネス拡大に向け開発投資を加速

アルパイン(株)(東証一部)では、将来のビジネス拡大を図るため、自動車メーカーに対する技術提案を強化して拡販に努めるとともに、新規受注を獲得した自動車メーカー向けビジネスの開発投資を加速させました。

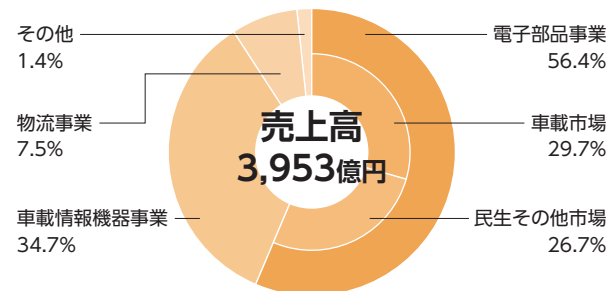
物流事業



■取扱物量の拡大に向けた取り組み

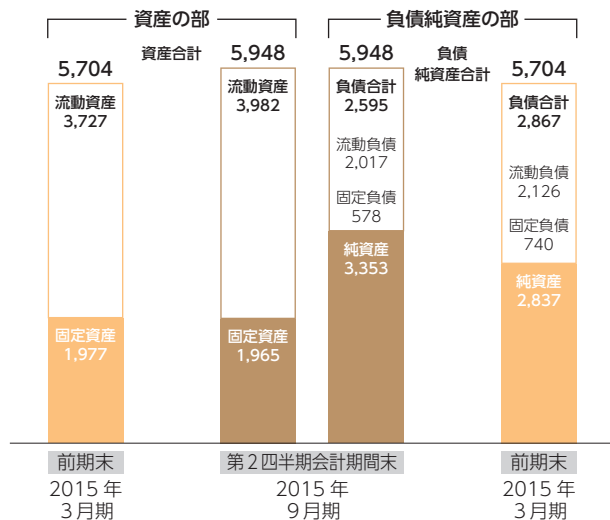
(株)アルプス物流(東証二部)では、取扱物量の拡大に向けたグローバル・ネットワークの拡充や、国内・海外が一体となった提案営業の推進に加え、運送・保管・輸出入各事業それぞれの生産性向上に取り組ましました。

事業別売上高構成比



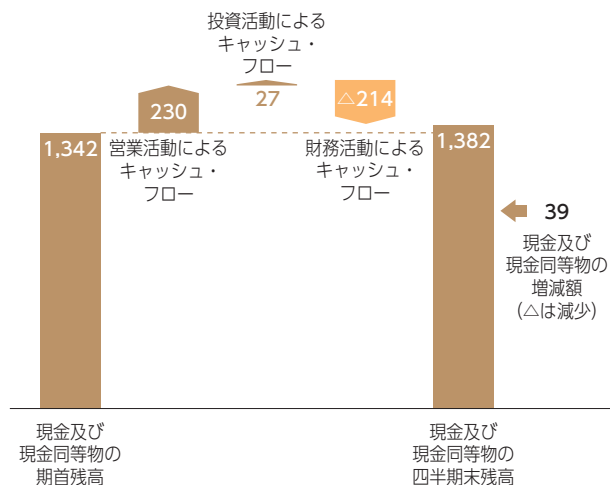
連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



連結キャッシュ・フローの概要

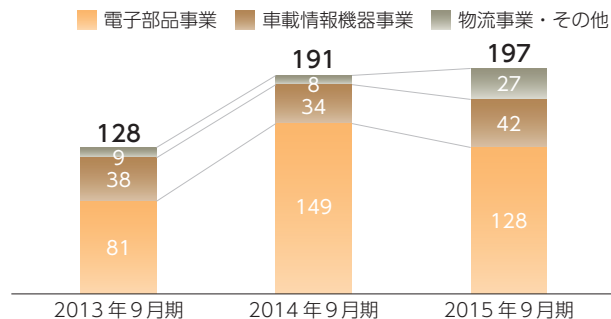
(単位:億円)



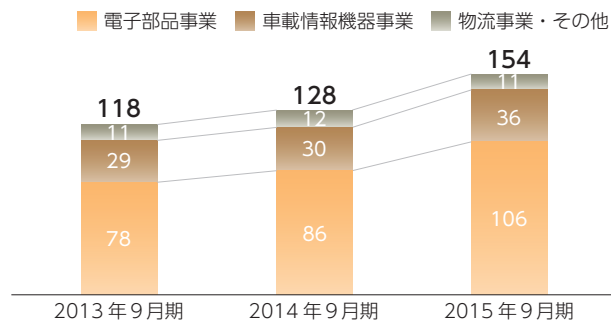
設備投資・減価償却費・研究開発費の推移 (単位:億円)

※内訳には連結消去を含んでおりません。

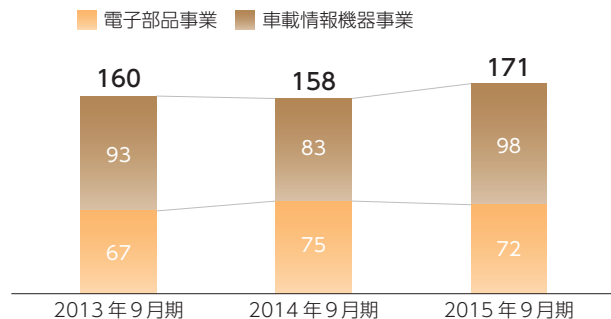
設備投資



減価償却費



研究開発費



株式情報

■ 株式状況

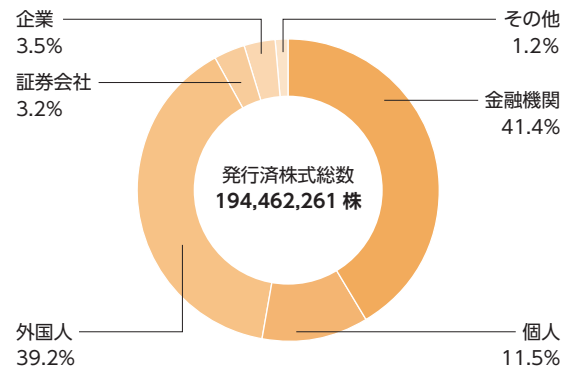
(2015年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 発行済株式総数
500,000,000 株 **194,462,261 株**

■ 大株主の状況

順位	株主名	株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	26,121,700	13.43%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,864,000	10.73%
3	資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	4,123,200	2.12%
4	THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	3,650,599	1.88%
5	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.85%

■ 所有者別分布状況



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。

(注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

IR情報Webサイトのご案内

IR情報

直近の財務諸表からよく頂くご質問まで、分かりやすいメニュー構成で必要な情報を入力できます。2015年の主なIR活動のカレンダーも掲載しておりますのでご確認ください。



IRニュース

当社株式に関連する新しいニュースが掲載されているコーナーです。

アルプス電気 IR

検索

■ 会社の概要

(2015年9月30日現在)

社名 アルプス電気株式会社
 英文社名 ALPS ELECTRIC CO., LTD.
 本社 〒145-8501
 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
 TEL. (03) 3726-1211 (大代表)
 (03) 5499-8026 (IR部門直通)

設立 1948年11月1日
 資本金 35,334,209,623円
 発行済株式総数 194,462,261株

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 基準日 定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日
 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
 その他あらかじめ公告して定めた日

定時株主総会 毎年6月下旬
 公告掲載 電子公告により、当社ホームページ
 (<http://www.alps.com/j/ir/index.html>)
 に掲載します。なお、やむを得ない事由により、
 電子公告ができない場合は、日本経済新聞に
 掲載します。

上場証券取引所 東京(第一部)証券コード6770
 1単元の株式数 100株
 株主名簿管理人及び
 特別口座の口座管理機関
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

三菱UFJ信託銀行証券代行部

検索

【ご注意】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ

☎ 0120-232-711

(受付時間: 土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)

住所変更等諸届用紙ご請求

☎ 0120-244-479 (24時間受付)

